

環境科学アドバイザー養成講座資料

第八教科資料

【生命の仕組みと健康⑥】

- 健全な肉体に健全な精神が宿る…P7
- 心を変えることは出来ないが
肉体を変えることは出来る…P9
- イジメや登校拒否、幼児虐待等の社会問題は
環境のエネルギーの低下によって起きる…P10
- 環境を改善すれば健康も人生も変わる…P12

付随資料

- ◆清水マリ子様からの手紙①
- ◆清水マリ子様からの手紙②
- ◆『全ての物質はエネルギーの現象である、エネルギーを調整することで現像は変えられる！』
- ◆夢の健康エネルギーをとり入れた生体活性化システム
- ◆人間の本质と肉体と心のしくみ
- ◆電気家計簿
- ◆海流石挿入後の臼のエネルギー変化

■健全な肉体に健全な精神が宿る

心や精神は肉体の生命力によって左右される！

人間の【肉体】と【心】と【精神】は密接な関わりを持って存在しています。

人は体が疲れて来ると気分も疲れてきます。
ものを考えたり創造したりする気力もなくなってきます。
そして、悲観的になったり不安になったりするものです。

一方、十分に食事や睡眠もとり体が体力に満たされているような時は、気分も良くやる気も湧いてきます。
そして、直感力や創造力も豊かになり、何かわくわくしてくるものです。

そうです。
人間の肉体と心と精神とは密接に関連しているのです。

人間の感情は肉体の意識であるため、体の受ける感触や体力の疲労度によって、感情機能の反応が異なるのです。

そして一方、精神や感性とは魂の意識や働きです。

人間の本質、実相としての魂がこの世での人生を体験するための実体が肉体です。
肉体は母体を通して連鎖して誕生して来ます。
既に母胎のなかで魂は間脳に宿ります。
生まれて成長を続け成人になって来ると、やがて肉体の機能や精神や感性をを魂の意識でコントロール出来るようになります。

人間の受精から出産までの生命誕生に関わる肉体の根元である生殖器官は、日々の生命の活動の原動力となる性ホルモンである生命エネルギーを造り出して、間脳や細胞に活力を与えます。

間脳にエネルギーが入ると全肉体機能の制御盤である脳中枢の活動が全開状態になり、魂の意識も全開になり肉体機能と精神機能のコントロールが自由自在になります。

また、造られる生命エネルギーの量によってコントロール能力も変わってきます。

こうした、人間の持つ肉体と魂の仕組みから『健全な肉体に健全な精神が宿る』の格言があるのです。

では、人間の生命の根源である性エネルギーや性ホルモンを造り出す動力源は何でしょうか？

つまり、車のエンジンを動かすガソリンや電気のようなものです。

それは、大気中に存在する生体電気エネルギーと、大地から発信される生体磁気エネルギーです。

いわゆる自然生命エネルギーと呼ばれるものであり、最も多い場所が一般には自然の森の中です。

従って、まだ自然環境が豊かだった時代、肉体も精神も健全にして偉大なる人物が数多く存在していました。

特に、強力な磁場を持つ大地と、鬱蒼たる生命力の高い大樹に恵まれていた日本列島には、『日本精神』や『文武両道』という言葉がありました。まだ【魂】という言葉が普通に使われていた時代です。

やがて、世界の人口増加と文明の発達とともに、人間の肉体と精神を健全に保つ生体磁気エネルギーである自然生命エネルギーは希薄になり、人間は生命力や免疫力を失い肉体も精神も疲労状態にあるのが現在の世相です。

生命力の衰退とともに、人間は寛容性も忍耐力も低下し、感情も不安定になり争いが増幅されて行きます。

大自然が持つ偉大な生命エネルギーを科学的に分析し、強力な生命磁場や装置を創造して人体や生活に応用する仕組みが【生体活性化システム】です。

生命エネルギーの充電装置であり、生活環境の改善と強化を図り、環境汚染と生命エネルギーの枯渇から生命と人生を守る未来思考の技術です。

■心を変えることは出来ないが肉体を変えることは出来る

肉体が変われば心も変わる！

人生にとって心は大変大きな役割を持ち、そして日々の生活に影響を与えます。

従って、多くの人が心の平安やコントロールを求めて哲学書や精神世界の勉強をしたり、瞑想やヨガをしたり、色々な修業や宗教に心の拠り所を求めたりします。

しかし、古今東西心の変化や悟りを求めても簡単に手に入った試しがありません。

何故なら心も精神もその時の肉体の生命エネルギーの状態や、肉体を通しての体験から築かれるものだからです。

まさに、心を支配するものは前述の如く健全で豊かな肉体であり、人間の実相としての魂とその意識です。

肉体の生命力が高まれば心も豊かになり、肉体の生命力が低下すれば心も貧しくなります。

また、肉体は自然環境から生まれ、その自然生命エネルギーによって支えられています。したがって環境を豊かにすることで肉体の生命力は高まり、心も精神も豊かになります。

故に、人間は変えることの可能な自らの肉体を健康にすることで心を豊かにし、その人生を変えることが出来るのです。

■イジメや登校拒否、幼児虐待等の社会問題は環境エネルギーの低下によって起きる

環境悪化が社会問題をつくる

これ迄みてきたように自然や生活環境と私達の生命や健康は密接な繋がりを持っています。

即ち環境の衰退と共に私達の生命も衰退の一途をたどります。

さらに、私達の肉体と心と精神、魂も密接に連動しています。

人は、疲れもなく生き生きとして鋭気に満ちている時には、心も安定して豊かであり、人との交流も楽しくなります。

しかし、身体が疲れている時は気分も安定せず、心配や不安、イライラが募ってきます。

つまり、感情が不安定になるのです。

そして、人との交流も楽しくなくなり上手く行かなくなります。

こうして、環境そのものが人間の健康ばかりでなく心にも大きく影響し、人間関係や行動に関係してきます。

イジメや登校拒否等は昔からあり社会問題化していましたが、今日益々増加の傾向にあります。

さらに、殺傷事件や引きこもり、自殺や幼児虐待等、これ迄考えられなかった事件が相次いでいます。

これは、進行する大気汚染や環境破壊が人間の生命を支えている自然環境の中における自然生命エネルギーを低下させていることから、換気しても生活環境における化学物質や電磁波による環境悪化を改善出来なくなるため、体内の生命エネルギーが低下して生命力を失い、さらには感情機能がバランスを失い、情緒不安定やパニック状態に陥るからです。

人々は事件の度に方策や対応を図りますが、こうした状況はエスカレートする一方です。

何故なら、根本的な原因が分からず、結果的な責任問題の追求に終始しているためです。

これ迄に、環境を改善して上げることでイジメや家庭内暴力や引きこもり等が改善した例が沢山あります。

かつて、静岡大学の二十日鼠における飼育実験では、木のゲージと鉄のゲージとコンクリートのゲージで2年間にわたって飼育したところ、木のゲージで飼っていた二十日鼠の生存率は80数%で子供の面倒を良く見ていたそうです。

そして、コンクリートゲージで飼育していた二十日鼠の生存率は6.2%不足で、子供の面倒をみず、死んでも無関心の中には自分の子供を噛み殺す母鼠もいたそうです。

そして、鉄のゲージでの結果はその中間だったようです。

これは、はるか25年も前の話でしたが、まさに現在の社会を予言しているような出来事でした。

■環境を改善すれば健康も人生も変わる

住まいは人をつくる

これまで自然と生命エネルギー、人間の肉体と健康について学んできました。
そして、自然や生活環境と人間の生命との深い繋がりについて。

日本がまだ戦後の復興期にあった昭和 43 年当時、北欧の国デンマークに渡り建築設計事務所に 5 年間勤務した時、そして天国のような美しい街や社会に感動しました。

中でも、一番心を動かされたのが豊かな住まいと住環境でした。

そして、平和で豊かな社会を支える基盤となっているものが、この豊かな住まいと住環境であることを痛感し、銀行や病院や学校等を設計するかたわら、住宅に一番関心を寄せてきました。

そして、日本に最も欠けていることに気付き、豊かな住環境を造ることが豊かな社会と国を造る事であるとの思いから、石油ショックの混乱の中にあった昭和48年、世界一豊かな国の女房と、生まれたばかりの子供を連れて帰国しました。

そして住宅の質や性能の研究を続けて行くうちに、性能の向上と共に健康や家庭が変わってゆくことをしり、さらに人間と健康、住まいと健康について研究を重ねるようになりました。

日々生活し身体を癒す空間であり、家族団らんの場である住まいが健康的で豊かであることが、健康で身心共に豊かな人間をつくり、それがやがて豊かな社会と国を造り上げることになります。

余りにも人間の健康とかけ離れた住環境が、現在の身心ともに混乱の中にある日本人と日本の社会の原因をつくり上げています。

健全な環境ありて健全な肉体あり、そして健全な肉体ありて健全な精神があります。